

世界の文化創造拠点ARITAプロジェクトについて <全体概要>

10年後の目指す姿 『世界の文化創造拠点 ARITA』

世界中から感性豊かな人々がARITAに集い、陶磁器文化を核に交流と学びが広がっている。こうした交流を起点として、佐賀の陶磁器のブランド価値が高まるとともに、文化・食・アートなど多様な分野での交流が広がり、文化(次世代への継承・創出)・観光(交流の促進)・産業(収益の多層化)が好循環を生み出している。
さらに、次世代の「文化創造拠点」として、ARITAを起点に佐賀県全体へ新たな交流と文化が生まれ、広がっている。

5年後の目指す姿 『文化交流拠点』

ARITA全体が陶磁器文化を体感できる「生きたミュージアム」として機能し、陶磁器文化のブランド力と文化的価値が高まり、陶磁器産業の持続的発展を後押しするとともに、その効果が周辺地域へ広がりはじめている。

〈事業目的〉 佐賀県の陶磁器産業において後継者不足、原材料高騰といった市場縮小が進行している状況をふまえ、「文化観光」というアプローチを通じ、世界の人々との交流を作り、陶磁器文化の魅力・価値を体験的に発信・訴求できる場を創出する。

〈課題〉 世界に誇る文化資源の価値や魅力がわかりやすく整理・編集され、十分に発信されていない
①文化体験の不足 ②宿泊施設・移動手段の未整備 ③ガイド・コンシェルジュの不足 ④プロモーションが不十分

〈取組概要(5か年)〉

事業期間:R7~11年度 エリア:有田町・伊万里市・唐津市・嬉野市・武雄市 誘客ターゲット:主に欧米を中心とした文化関心層

- ① 自走化に向けた体制構築 Momentum Makers of ARITA
✓地域Co.を中心としたプロジェクト推進 ✓好循環モデルの構築 ✓自走化のしくみ・体制づくり
- ② ARITAの磨き上げ~物語を感じるまちづくり・生きたミュージアム~ The Living Museum ARITA Project
✓文化資源の価値を掘り起こし可視化させ、ストーリーとして編集・アーカイブ化し発信
✓九陶を文化観光ハブ拠点として体験・宿泊・移動・ガイドを一体的に整備し、世界との交流を生む深い文化体験と滞在価値を高める
- ③ ARITAを起点とした周遊促進・世界への発信 Beyond ARITA Project
✓周辺地域での「文化体験」を整備し、有田を起点とした周遊ルートを造成
✓ブランドサイト制作やメディア・旅行社のFAM等により、世界の文化関心層の誘客を促進

事業目的

佐賀県の陶磁器産業において後継者不足、原材料高騰といった市場縮小が進行している状況をふまえ、「文化観光」というアプローチを通じ、世界の人々との交流を作り、陶磁器文化の魅力・価値を体験的に発信・訴求できる場を創出する。

陶磁器文化の魅力・価値を体験的に発信・訴求できる場を創出することにより、

①交流が器の効果的なプレゼンの場となり陶磁器ブランドの価値を世界へ発信するとともに、②作り手の創作意欲の喚起につなげる

<主な課題>

世界に誇る文化資源を有しているにもかかわらず、その価値や魅力が分かりやすく整理・編集され、十分に発信されていない

①

文化体験の不足

人・歴史・文化・自然・建物等のポテンシャルを活かした来訪者の理解と共感を深める「深い文化体験」が不足



②

宿泊・移動手段の未整備

通年での目的地化が進んでおらず、滞在につながる魅力的な「宿泊施設」の不足や「移動手段」の未整備



③

ガイドの不足

陶磁器文化の背景や価値を伝える、文化発信・観光案内の「語り部」(ガイド・コンシェルジュ)が不足



④

プロモーションが不十分

文化への関心層が高い海外層を呼び込むための、旅行会社等との連携が不十分かつ国際発信力が不足



<取組概要>

世界の文化創造拠点ARITAプロジェクト

- ✓ 事業期間:令和7年度~11年度(予定)
- ✓ 事業対象エリア:有田町・伊万里市・唐津市・嬉野市・武雄市 ※まずは有田を中心に事業実施
- ✓ 誘客ターゲット:
主に欧米を中心とし、地域の伝統文化の発展・継続に寄与する旅に関心が高く、体験価値に正当な対価を払う文化関心層

1 自走化に向けた体制・しくみづくり Momentum Makers of ARITA (有田改革者)

プロジェクト終了後も、文化(次世代への継承・創出)・観光(交流)・産業(収益の多層化)の好循環を生み続けるしくみづくりや自走化に向けた体制を構築

2 ARITAの磨き上げ The Living Museum ARITA Project (生きたミュージアムARITA)

基盤:文化資源の魅力・価値の可視化 世界の文化人による価値発掘 ~ ストーリーとして再編集 ~ デジタルアーカイブ化
体験:「佐賀県立九州陶磁文化館」のゲートウェイ化 (魅力強化による目的地化/有田町内・周辺地域への回遊促進)
世界との交流が生まれる「深い文化体験」の整備(有田町)
宿泊:陶磁器文化を体感でき、文化の入り口となる「宿泊施設」の整備(有田町)
移動:有田町内・周辺地域へつなぐ「移動手段」の整備
ガイド:地域と旅行者の“架け橋”となり滞在価値を最大化する「ガイド・コンシェルジュ」の育成・セミナーによる機運醸成

3 ARITAを起点とした周遊促進 Beyond ARITA Project (有田の先、佐賀の真髄へ)

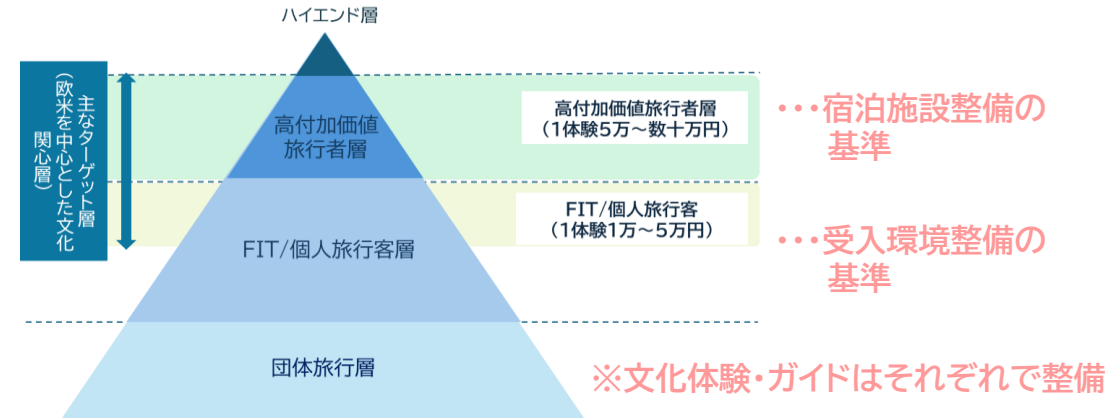
体験:世界との交流が生まれる「深い文化体験」の整備(伊万里市・唐津市・嬉野市・武雄市)~有田を起点とした周遊ルート造成
プロモ:世界の文化関心層の誘客促進プロモーション(旅行会社・メディアのファムトリップ、ブランドサイトの制作など)

世界の文化創造拠点ARITAプロジェクトについて <ターゲットの考え方>

誘客ターゲット

主に欧米を中心とし、地域の伝統文化の発展・継続に寄与する旅に関心が高く、体験価値に正当な対価を払う文化
関心層（高付加価値旅行者及びFITの目的型旅行者（Art/Craft Seeker：アート・クラフトシーカー））

- ・有田焼は歴史的背景から欧米において高い認知と文化的理解があり、既に欧米のFIT層が一定ARITAに訪れており、滞在・消費・リピートの伸び代が大きい。
- ・欧米の高付加価値旅行者を中心に、既存の高付加価値な陶磁器関連の文化体験の予約が継続的にあり、本層を取り込むことで、佐賀県の陶磁器文化のブランドの向上に寄与し、さらなるFIT層への波及も期待できる。



受入環境整備(九陶・移動手段等)の基準とするターゲット

主に欧米の文化関心層のうち **FITの目的型旅行者**（Art/Craft Seeker：アート・クラフトシーカー）

- ・有田を訪れる観光客の中心はFITで9割が日帰り利用。文化体験プログラムや移動環境等の充実により滞在時間を延ばすことで、観光消費拡大が期待。
- ・九陶を訪れる来訪者もFITが中心。高付加価値旅行者は事前に行程が確定しており、職人との直接的な対話や生産現場への訪問を重視する傾向が強い。
- ・移動面では、高付加価値旅行者が主にハイヤーを利用するのに対し、有田を訪れるFITは電車利用が多い。町内を円滑に回遊してもらうには移動手段の充実が課題であり、移動に制約のある方を基準に環境整備を進めることで、町全体の利便性向上が期待できる。

宿泊施設整備の基準とするターゲット

主に欧米の文化関心層のうち **高付加価値旅行者**（Art/Craft Seeker：アート・クラフトシーカー）

- ・FITが利用する民泊の整備は進んでおり、これらとの差別化とARITAのブランド価値向上を目的とし、高付加価値旅行者を対象とした宿泊施設を整備。

世界の文化創造拠点ARITAプロジェクトについて <ターゲットの考え方>

有田を目的地とする誘客促進プロモーション

ターゲット

主に欧米の文化関心層

- ①高付加価値旅行者
(主に旅行会社経由)

行程が決まっている
職人との対話好み、
九陶によらず現場へ
直行が多い



- ②個人旅行者(文化関心層)
(OTA等で自己手配)



九陶を訪れる旅行者
は個人旅行者中心

滞在の長期化
観光消費額の拡大
ヒアリングによる現状

- 文化資源はあるのに・・・
- ・交通が不便
 - ・多言語ガイドがない
 - ・宿泊施設がない
 - ・情報がない
 - ・店が開いていない
 - ・食べるところがない

文化観光ハブ拠点(九陶)～回遊へ

- ・移動手段・
主に主要都市
より(福岡等)



ハイヤー【ガイド帯同】

主に有田駅より

- ①徒歩
- ・駅から九陶への
サイン必要
- ②スローモビリティ
(レンタサイクル等)
- ・長期貸出
・返却スポット増

- ③BUS
- ・コミュニティバス
接続

- ④ハイヤー
ドライバーガイド
- ・貸切タクシー
・ドライバーガイド
整備
(観光協会連携)

※レンタカー利用もあり

- ・中核(コア)施設・
九州陶磁文化館

主に個人旅行者を基準として整備

- ・文化観光ハブ拠点としての機能・
タビナカでターゲットの
行動変容を起こさせる
- ・魅力強化による目的化
- ・有田町内、周辺地域
回遊への動機づけ
(知的関心・購買意欲喚起)

- 展示体験機能
- ◇第3展示室
(九州の古陶磁)
- ◇第4展示室
(現代の九州陶磁)
- ◇第5展示室
(茶室の演出/映像投影)
- ◇USEUM CAFE
(陶磁器×食のマリアージュ)

- コンシェルジュ機能
- ・コンシェルジュ(有人)・
無人案内システム整備
- ・館内多言語ガイド派遣
- ・県内イベント情報発信
- ・ツアー予約
- ・ハイヤー・ドライバー
ガイド手配
- ・レンタサイクル等貸出
- ・高付加価値旅行者
向けの特別体験(検討)

- ・移動手段・
九陶より



ハイヤー【ガイド帯同】

九陶より

- ①スローモビリティ
(レンタサイクル等)

- ②BUS

- ③ハイヤー
ドライバーガイド

- ④徒歩

移動環境は、
主に個人旅行者を
基準として整備

※レンタカー利用もあり

- ・サテライト・

各所が次の行動へのスイッチ

主に高付加価値旅行者を
基準として整備

感動文化体験



宿泊・滞在



取組(案)

- ◆ARITAの目的化 R8～
- ・資源価値の可視化・物語化
- ・九陶の展示魅力向上
- ・深い文化体験整備
- ・誘客促進プロモーション
- ◆回遊性・満足度向上
- <移動> 今後連携先と検討
- ・九陶コンシェルジュ機能
- ・スローモビリティ拡大
(長期貸出・返却場所増設)
- ・コミュニティバス接続
- ・ハイヤー整備
- ・ドライバーガイド整備
- <滞在> R8～
- ・宿泊施設の整備
- ・飲食店の整備
- <人材> R8～
- ・コンシェルジュ・ガイド育成
- ・町全体のホスピタリティ向上

買う・食べる



見る・知る



周遊地域への回遊